# 第１６回全国サンマ・イカ等鮮魚大手荷受・荷主取引懇談会開催概要

・日　時　令和元年７月３日（水）　１５：００～１８：００
・場　所　京王プラザホテル札幌　２階　「エミネンス」
・出席者　来賓：７名　　荷受：５２社　８０名　　商社：１１社　１９名
　　生産者団体：２組合　３名　　関係団体：３団体　５名
　　荷主：３１社　３８名　　その他：４名　　報道機関

Ⅰ　開　会

Ⅱ　主催者挨拶　代表理事会長　根田　俊昭
・　日本近海の海も想像できないほど変化しており、サンマ・イカ等も不漁津続きで加工業者、販売業者、全ての方々が苦慮する事態に陥っている。
・　荷受様等、出席者の知恵を拝借しながら、どうやって消費者の元へ届けるかを一緒に考えていきたいので、今後ともご指導・ご鞭撻をお願いする。

Ⅲ　来賓挨拶
○　大都魚類株式会社　代表取締役社長　網野　裕美　様
・　平成の３０年間に生産量・荷受の取扱数量とも半分以下に減少。新たな令和の時代にこの右肩下がりの現状に歯止めをかけ、回復に転じさせることが必要。
・　サンマは旬の秋に、鮮度・脂乗りの良いものを消費者に提供できれば、深刻な問題の一つである魚離れの抑止にもつながる。道東のサンマを豊富に出荷していただけることを、全国の荷受一同心待ちにしている。

Ⅳ　来賓紹介

Ⅴ　講　演
演　題　「今年のサンマ・イカ・サバ・イワシ漁の見通しについて」
講演者　地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部
　　釧路水産試験場調査研究部　研究主幹　山口　浩志　様
　　研究職員　守田　航大　様

Ⅵ　全体討議（司会：㈱カネコメ髙岡商店　髙岡社長（副会長））
■　公海サンマについては、細くて脂もなく、量販店にはサイズ・鮮度とも納得してもらえる物ではなく、徐々に客離れしているなど厳しい評価。
■　公海サンマの品質は毎年変化するため、長い目で見守る必要もある。
■　道東で増えているイワシについては、根室産イワシ「根室七星」のようにブランドとして積極的に扱うことも考えるべき。
■　スルメイカについては今期も来遊見通しが厳しく、本州にどれだけ送れるか予測もできない。展望が見えてこない。

Ⅶ　閉　会